

# 教育センターだより

あの頃……

県教育センター教育史資料室資料から



まくれんこ学級（昭和35年ごろ）

旧湯沢東小学校グラウンドでの実演

## 秋田県教育研究発表会特集

記念講演「これからの学校教育と教師への期待」

### も く じ

昭和63年度秋田県教育研究発表会

- ・全体会発表と参加者の声……………2・3
- ・記念講演「これからの学校教育と教師への期待」(要旨)…4・5
- 秋田県教育風土記(社会科の巻)……………6
- 相談室日記・短期研修員だより……………7
- 平成元年度教育センター研修講座の案内……………8

第 4 4 号

平成元年3月4日

秋田県教育センター

秋田市仁井田緑町4番2号  
☎ (0188) 32-3594

秋田県教育研究発表会は、2月15、16の両日、秋田県生涯教育センターと秋田県児童会館を会場として開催され、参加者は延べ700余名となった。全体発表では「児童・生徒の心を育てる教育活動計画とその実践」についての3発表と7分科会56の発表があり、熱心な研究討議がなされた。研究発表に引き続き記念講演があり、盛会裡に全日程を終了した。ここでは、全体発表の要旨と記念講演の要旨を紹介する。

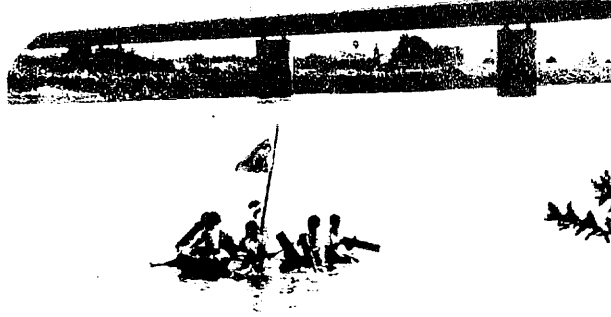
心を耕す総合活動の反省と今後の課題

大曲市立花館小学校  
教諭 奈良宏一

二年間の計画と実践から言えることは次のことです。  
1. 児童は総合活動に喜んで参加している。  
2. 総合活動は、学校生活の活性化に大きくつながり夢と創造性をふくらませる。  
3. 総合活動は、児童の心を耕していくことに有効である。

これらの三点を確認し、その上に立って、総合活動をより児童のものとし、更に確かなものになりたい。そのために活動内容・時間の在り方、そして学校全体の中の総合活動

月	全校的活動	学年部活動	学 年	時数
4	新入生を迎える会		全	1
	運動会		全	12
5		修学旅行	6	14
		古里散歩	4	3
		迷路トンネル	3	6
	遠 足		1-5	6
6	のど自慢集会		全	2
	鹿島流し		全	6
7		筏流し	5	19
	ジャンケン集会		全	1
9		林間学校	5	14
		ちびっこ校内キャンプ	1-2	5
		冒険の旅	6	10
	なべっこ遠足		全	6
10	ものまね集会		全	1
	文化祭		全	15
11		学年オリンピック	4	5
		サケの捕獲見学	3	4
12		10歳式	4	7
	クラブ委員会紹介		全	1
		豆腐づくり	6	4
1	スキー教室		全	5
	雪上運動会		全	2
2		川を渡るほん天見学	2	2
		壁新聞コンクール	5	3
		卒業制作	6	5
3		ひなまつり	1-2	2
	卒業生を送る会		全	2



筏 流 し

として、どう位置づけ、検討していくかを課題としたい。

豊かな心を育む総合的・体験的活動

大曲市立角間川小学校  
教頭 伊藤 正

- 「児童生徒の心を育てる教育活動計画の開発」の課題について、本校では、人間の諸能力や感動する心は、五感を通して活動に没頭することによって体得され、育つものとの考えに立ち、月の第四土曜日を「ふれあいの日」とし、年間五主題の体験的・総合的活動を試みた。
- ① たてわりグループによる全校活動に
  - ② 地域の自然・文化に触れる活動の組み入れ
  - ③ ふれあい賞を設け、自主協調活動の称揚
  - ④ 見通しの立つ事前学習、児童の自主的活動の場を広げる工夫と全職員の参画による実践である。
  - ⑤ 育てる喜び、収穫の喜びの勤労体験の総決算「農園秋まつり」(10月)
  - ⑥ ピン流し等で雪に親しむ「雪の広場」(2月)
  - ⑦ 育てる喜び、収穫の喜びの勤労体験の総決算「農園秋まつり」(10月)
  - ⑧ 段ボールで角小デザインランドづくり「土曜大フェスティバル」(9月)
  - ⑨ 段ボールで角小デザインランドづくり「土曜大フェスティバル」(9月)
  - ⑩ 育てる喜び、収穫の喜びの勤労体験の総決算「農園秋まつり」(10月)
  - ⑪ ピン流し等で雪に親しむ「雪の広場」(2月)
  - ⑫ 育てる喜び、収穫の喜びの勤労体験の総決算「農園秋まつり」(10月)

- ① ふるさとを辿る「冒険ハイキングする」(6月)
- ② 自然と向き合い、水南下



つり大会

# みつめあい、認めあい、磨きあう生徒の育成を目指して

大曲西中学校教諭 大 西 堯

これからの世代の者にとって、現代の多様な現象に対応し、充実した人生を送れるためには、できるだけ経験領域を広げ柔軟な開かれた心をそなえた生徒を育てることだと考える。

そのために、本校では五つの部門を創設し、全職員が共通理解のもとに生徒にいろいろの機会を通して、感動体験を与え感性豊かに育つよう実践してきた。

- ①、地域の指導者を迎えてのクラブ活動
- ②、家庭からの助言を得ながらの一坪農園
- ③、地域に根ざしたボランティア活動
- ④、学年を越えて教え合



ボランティア活動

- ⑤、国際理解への一助として海外オープン学習

いずれも狭義のクラスや学校から、外界に心の視野を広げることが目的としている。

このような活動を二年間にわたって継続研究した結果、生徒は姿も態度もそれ以前にくらべて、多くの変容が見られ、積極性が増し、より広く周囲に目も心も向ける姿勢が加わり、お互いの信頼と尊敬が増大し

一つつあるように思われる。

## 参加者の声

この研究発表会で、人間性や心という形のない物に働きかけていく糸口が、実にたくさんあることを学ばせていただきました。

その糸口は、地域の社会や自然を見直していく際の視点として参考にさせてもらおうと思います。

また、子供をとりまく社会のマイナス面が挙げられがちなか、情報処理、視覚機器などの活用は現代ならではのプラス面を子供たちに与えてくれるものだと思います。

随所に「社会の多様化」という言葉が使われて

いましたが、柔軟な子供たちと向き合うには、自分が多様化に対処するための一歩を踏み出さなければならぬのだと感じました。

昭和町立大久保小学校

教諭 西 圭子



二日にわたり傾聴致しました。全県下、幼稚園教育から小・中高・特殊学校まで、県教委の「学校教育の指針」に示される施策が、どの研究実践発表にも見事に展開され、内容の深さに感銘させられました。

全体発表では「人間とは何か」が問われるような哲学を聞く思いがし、その他も

「心」と「地域に根ざした教育」が発表の底流にあることを感じました。

私は、教科外風指導の道徳や、体験学習の実践に感動を深くし、すばらしい記念講演など、終始楽しい思いで過ごしました。

発表者の研究の手法や実践内容を職場にも十分伝達し、教育実践に役立てたいと思います。

大館市立下川沼中学校

教諭 佐藤 喜美男

記念講演から (公開講演シリーズその3)

「これからの学校教育と教師への期待」

お茶の水女子大学教授 森 隆 夫

★ 新しい指導要領が発表され、これからの学校教育はこれを★

★ 基に展開されることになる。そこで今回は、新指導要領に★

★ ついて森教授のお考えの一端を紹介する。なお、これは2★

★ 月16日の講演の要旨である。★

これからの新しい学校教育は、先般発表されました新学習指導要領に示され、これによって展開されていくこととなります。

そこで、最初に新指導要領のねらいとするところについて考えてみたいと思います。これには四つのキーワードがあつて、第一は「豊かな心、たくましく生きる力」、第二は「自ら学ぶ意欲と社会変化への対応」、第三は「基礎・基本と個性の伸長」、第四は「国際理解と文化と伝統の尊重」であります。以上の四つのことについて一つずつコメントしてみたいと思います。

第一の「豊かな心を持ち、たくましく生きる」ということですが物は豊かになったが、心は貧しくなつたとは、よく言われることであります。しかし、私はこれは、物事が高度化するパターンの一つだと思ひます。物事が高度化する場合には、物質的なものから精神的なものへというパターンがあります。物から心へ、そのパターンの一つとして豊かな心とということを考えてみたいと思ひます。物質的に豊かになりさえすればよい

★ ということになりますと、ユダヤの

諺のように「金持ちの家には子供はいない。居るのは、相続人だけだ」という結果になります。何となく現代の日本の風潮を象徴しているかのようにです。秋田県から送られてきました「生涯教育と学校教育」という冊子にも中国の「小学」の「暖衣飽食逸居して教うる所なければ則ち禽獣に近し」という言葉が紹介されております。もっと精神的なものを求めましようという意味です。土光敏夫さんの信条は「暮らしは低く思ひは高く」というワーズワースの詩の一節だつたといひます。昨今の風潮を考へますと、土光さんの言葉の意味の深さが分かるような気がします。

道徳教育について、ところで、「心豊か」というとすぐに道徳教育に短絡して考へる人が多いのです。でもそう安易に考へてはいけないと思ひます。道徳教育は、教育基本法第一条の「人格の完成をめざす」教育の目的を実現するための一つの手段であつて全部ではないのです。

しかし、私は道徳教育に反対する人は、人間の存在を自ら否定している人、思ひます。立派な人になる

というのは、教育の究極の目的なのであつて、お金を儲ける偏差値を高めるといふのは、教育の目的としては下位の目的なのです。カントは目的を三つに分類し道徳目的を上位の目的、技能的目的を中位の目的、実利的目的を下位の目的に位置づけました。こう考へますと、日本の教育も漸く上位の目的を志向するようになつたといへると思ひます。

人格の完成といふのは、永遠の課題です。教育における不易と流行といふことが言われますが、この人格の完成といふ教育目標こそ私は教育における不易の面と考へております。百年前もそうでしたし、百年後の将来も変わることはないでしよう。

心の教育について、ある町の講演で私は、お医者がかつていた趣旨のことを申し上げましたところ、あとで「……でもいい医師は不足している」と指摘されました。いいものは医者に限らず何でも不足しているわけですね。高齢化社会を迎え、肉体的には、老化しながら心は未熟なまま死んでいくわけですが、そう考へますと、「心の教育」は非常に大切になつてくるわけであります。そしてこの「心の教育」をどう行うかが問題になつてくるわけですね。これは、道徳教育のカリキュラムを作るといふ単純な問題ではなく、「心の教育」は「心」でするしかないのです。子供たちは、身近にいる親や学校の先生の心に触れて感動し、初めて「心の教育」が可能なのです。学習指導要領で、幾ら徳目を並べ、て、それ

を解説してみても「心の教育」にはならないのです。ですから、学習指導要領は、子供に対する指導の基準であると同時に先生に対する反省の基準でもあるわけですね。

たくましく育てるには、このたくましさをつけるために無人島体験など様々な試みがなされていいますが、何も無人島に行かなくても、逆境におけばよいのです。冷暖房のない学校などもその一例でしよう。最近学校の効率化をねらいとした学校のインターネット化といふことが言われておりますが、子供の学習は余り効率を考へない方がよいと思ひます。子供は不便にしたほうがよいと思ひます。便利にすると思へる力が育たないと思ひます。

自己教育の限界と教師の影響、二番めのキーワードは、自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる人間を作るといふことです。自己教育力といふことがよく言われますが、自我意識が発達せず、真に自分を知らぬ子供たちに果たして自己教育ができるものでしようか。現在の自己教育論に一番欠けているのは、自己教育の限界論だらうと思ひます。自己教育には、自分の中に教師である自分と生徒である自分と二人居なければなりません。これは、一道を極めた人でも難しいことで、小・中学校の段階では「自ら学ぶ意欲関心」を持たせる動機づけをすれば十分だらうと思ひます。それをどう育てるかが問題ですが、内発的な意欲を外から刺激してあつても内から出たか

から刺

のように見せかける、それが教育なんです。そのためには、先生が「面白いぞ」と思ったことを生徒も面白いと思うような教師と生徒が一体化して感動を共にする人間関係を作ることが大切です。だから先生は専門家であると同時に、人間性も立派でないと生徒に影響力を与える訳にはいかないのです。

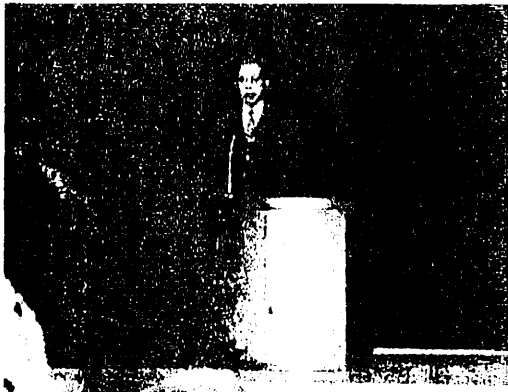
社会の変化への主体的対応で思うこと、こう言いますと、一般には情報化国際化のことが頭に浮かびますが、私は、人間がどう変わったかを考えない社会変化は教育には役立たないと思います。では、人間はどのように変わったのか、それはローレンツが言うように「文明の発達につれて、大人が幼児化した」ということなのです。人間の幼児化現象は犯罪と遊びの時間の増加をもたらします。学校の語源はスコールで暇という意味です。暇な時間を遊ばせないで学ばせようとする意図を持っているのです。ところが最近の学校を週休二日制にして遊ばせようとする動き……何たる歴史の皮肉であろうと思いません。科学技術が進歩し分業が進むと物事の全体が見えなくなり、人間は自立できなくなりました。このことを大人の幼児化と呼んでいるわけですが、これは教育の目的である「自立への基礎」を養うことに相反することになります。また、幼児化した大人が、一方で、大人化した子供を教育している現状から様々な教育問題が起こってくるのです。今、社会の変化という時、そういう人間の変化

への……が抜けていることを指摘しておきます。

更に情報化社会では、コンピュータで処理された情報量の増大に伴って我々の選択の問題を考える時、真に大事なものは隠された正確な情報(intelligence)であって外見的情報(intelligence)ではないのです。真理の探究、発見、創造などには皆前者が問題なのであって、後者ではないのです。

基礎・基本と個性を生かすことについて、このことについて私は基礎・基本は柔道、剣道、能などの型だと思っています。型から入って努力しているうちに得意技が出来て、これが個性であり、個性とは、いわば人生の得意技という風に、私は定義しています。

個性論でもう一つ大切なことは平凡な個性が大切だということなのです。例えば「絶対遅刻しない」



講 演 風 景

などは立派な個性だと……ます。どんなことでもいいから子供たちに自信を持たせ、生活に張りを持たせることが、個性を伸ばすことになるのだと思います。変わった教育をしても、子供たちの個性は伸びないだろうと思います。

国際理解と文化と伝統の尊重 英語の学習が国際理解でないことは周知のことです、大切なことは、心の国際化ということですね。国際理解の教育で大事なことは、外国人とつきあえるかどうかということ、人間関係のマナー・儀等が国際化教育の基礎基本ということになるでしょう。日本人同士で挨拶できない人が外国人と急に挨拶できるはずがないからです。

教師に期待されること 以上、四つのねらいを持ってこれからの学校教育が展開される訳ですが、それではこれを担当する教師にはどんなことが期待されるのでしょうか。

教師の資質向上について 立派な教師というのは、専門性、人間性両方に優れている人と言います。教師の人間性を考える時、資質と素質が考えられますが、教員の資質向上という時、私は教員の資質を限りなく素質に近づける必要があると思います。

このことは、教師の愛と親の愛を比較するとよく分かります。教師は親の愛の公平さにはかなわずまた、その無報酬性にも太刀打ちが出来ないのです。このことを自覚した上で、親の愛に近づこうと努力し、更にそれを素質に近づけようとするのが、

教員の資質向上だと思います。

求められる教師の人間性 また、どんな立派な教育の技術にもその基礎には豊かな人間性がなければならぬ。人間は生まれながらにして好きな人、尊敬する人の言うことを聞くようにできているからです。逆に嫌われて軽蔑されると幾ら正しいことを教えても通じないことになりす。

教え子の中から湯川秀樹、朝永振一郎、江崎玲於奈の三人のノーベル賞受賞者を出した吉川という先生がおりますが、この先生の特徴は三つありました。一つは優秀と言うよりは、温厚な性格、二つめは、先生がよく勉強をしていたこと、三つめは授業がおとぎばなしのように面白かったということでありす。だから、生徒は皆物理が好きになりました。好きになれば、あとは生徒は一人で勉強するわけで、好きにさせる方法が授業に盛り込まれなければなりません。

要するに人間性も専門性も高くユ一モアがあつて、教え方の上手な先生が理想的だと思います。

最後になりましたが、信念を持つということ、やはり素晴らしいことだと思ひます。それは、旅行における目的地のようなものです。

土光敏夫さんは「暮らしては低く思ひは高く」という目的地に向かっておられたと思ひます。

どうか皆さんも信念を持ち生徒に敬愛される先生になっていただきたいと思ひます。

(文責 教育センター広報委員会)

# スコープ・シークエンス

今年の元日に、「教職を去って、はや十五年が過ぎましたが、スコープ・シークエンスといった用語が、盛んに言い交わされ、単元作りに汗していた頃をひとしきり懐かしく思い出しています。」と、添え書きされた年賀状を手にした。

# 秋田県教育風土記

渡辺俊雄

社会科の巻 その1 (草創期)

残念なことに、この年賀状には、発信人の記名が漏れていたのであるが、達筆さ加減とご退任後の年数からして、おそらく県南のS先生からのものであろうと推定された。

いると思われる。

スコープ(学習経験の範囲)とシークエンス(排列)を目安とし、これを組み合わせて単元を構成してカリキュラムを作る――それが、社会科を進めるために、まず手がけなければならぬ労作ではあった。

加えて、社会科の単元は、児童生徒の特性や生活基盤である地域の実

態をふまえて構成しなければならぬことが重視されていたことから、いきおい各地区で「地域社会調査」や「児童・生徒実態調査」が行われたことである。

## 特色ある調査とカリキュラム

昭和二十四年四月、学務課長梅津正雄氏を委員長として発足した秋田市カリキュラム委員会では、「児童生徒調査(実態調査編)」及び「地域社会調査(資料編)」を作成し、翌昭和二十五年四月には、秋田市小・中学校用の「社会科ソース・ユニット(資料単元編)」を作成して各校に配布し、社会科カリキュラムづくりの便に供した。

こうした動きは、県内の各地で見られたが、なかんずく県南の増田小プラン(農村地域の性格に立った社会科カリキュラム)、中央の附小プラン・附中プラン(市街地域における社会科カリキュラム)、県北の尾去沢小プラン(鉱山地域の特色に立った社会科カリキュラム)などは、いわゆる社会科の地方計画の試案として、先導的役割を果たしていたことが特筆されよう。

なお、これらの学校では、生活経験に即して教科の統合を図り、問題解決中心の学習を志向したコア・カリキュラムの実践研究も意欲的に進められていたことである。

## 新教育研究協議会の開催

社会科の授業が開始されてから五月目(社会科授業の開始は昭和二十二年九月一日)の昭和二十三年三月五日、文部省主催で東北地区中学校社会科担当教員対象の「新教育研究協議会」が、附属小を会場に開催された。

この時提案授業を担当されたのは、浅利三郎、仲間清の両氏であった。ちなみに浅利氏は「秋田市の交通について」(二年生)の単元を扱っているが、これが、公的場で行われた社会科授業の草分けと思われる。

## ワークショップでの授業演示

昭和二十五年九月二十五日から六日間にあわたり、秋田市中通小学校を会場に開催された東北ブロックワークショップ(小学校・幼稚園教員対象)での授業演示は、新設社会科の在り方が問われるものであった。

演示指導に当られた竹内栄治郎氏(当時県指導課)、奥村新一氏(当時中通小学校)から後日談として伺ったところによると、正に英知の限りを尽くして臨んだ授業であったという。

なお、社会科授業の演示者は、一年松組担任の佐藤コト氏(単元は「お客様ごっこ」)、二年桃組担任の浅野ヒナ氏(単元は「お店ごっこ」)、三年桜組担任の佐藤保一氏(単元は

「市営バスはどのように利用されているか」)、四年梅組担任の広瀬恭子氏(単元は「秋田駅の貨物」)であった。

この研究集会にCIE(民間情報教育局)から派遣されたミス・アンブローズ女史は「こんなに気持ちのよいワークショップに出合ったのは、はじめてです。」と、語っているが、これをもってして、その評価が、いかに高かったが知れよう。

## 県社会科研究会の発足

昭和二十五年六月に入ると、各郡市に次々と社会科研究会の誕生を見たが、全県を一本化した組織づくりへの要請が次第に高まっていった。これを受けて、県都秋田市の社会科研究会では、高瀬忠廣氏(当時秋田県社会科研究会会長)を中心に清水通良氏、大滝清氏、荒川廣得氏、奥村新一氏、岩谷貞三氏、仲間清氏らがその労をとり、昭和二十七年三月一日、旧県立児童会館(現県民会館の位置)において設立総会を開催し、全県組織としての「秋田県社会科研究協議会」の発足を見るに至った。

なお、会長には高橋一郎氏(当時秋田高校長)の就任を要請し、小・中・高を一貫する本県社会科教育の研究活動体制が敷かれたのであった。(元秋田市立明德小学校校長)

前号の福田雷三は福田庸三のまがいでした。お詫びして訂正申し上げます。なおこの項は次号に続きます。

2月×日

二月に入ってから、相談のため  
に来所する方々がとても増えてき  
た。聞いてみると、毎年二月は相  
談数が増え、三月になって卒業式  
や修了式を境にして減っていくと  
いう。そう言われてみれば、確か  
に二月は、これからの進路の節目  
を前にして悩む時期と言える。

今日も子供の登校拒否などの悩  
みを抱えた保護者の相談を担当し  
ている先輩の先生には、面接相談  
で忙しい合間にも、たびたび保護  
者や担任の先生方からの  
相談の電話が入り、昼食  
の時間もずらしたり、削  
つたりして相談に答えて  
いる。

時々ではあるが、電話  
で相談を受けることのある私にも  
保護者の深刻で痛いような気持ち  
が電話越しに切々と伝わってきて、  
お話を聞きながらも、どうにかし  
てこの方々の気持ちを少しでも楽  
にしてあげたいと思うのだが、な  
かなか難しい。  
しかし、一時間以上も話したあ  
と  
「ああ、本当にこれだけ聞いても  
らえて気持ちがつきりしました。  
こんなことは誰にも言えないし、  
言ってもわかってくれる人もいな

いの……」

と言われると、電話の緊張も忘れ  
てホットする。そして、いつかは  
きつと、相談の子も立ち直って欲  
しいと願う気持ちになる。

2月×日

今日も朝から相談の予約ブレー  
トが数多くつまっている。教育相  
談は、情緒的な心の悩みなどの相  
談も多いが、言語指導をしてもい  
うために通ってくる子供たちもい  
る。言語指導を始める時期は、早



相談室日記

ければ早いほどいいということ  
ほとんどが就学前の幼い子供たち  
である。どの子も無邪気な可愛ら  
しさにあふれ、時折、一緒に遊ぶ  
ときもある。

担当の先生の指導を見ていると  
教えこむのではなく、絵本や紙芝  
居を読んであげたり、一緒に遊ん  
だりしながら、いつのまにか、指  
導になっているので感心させられ  
る。

2月×日

今日は相談だけでは、知能検査  
の依頼も入っている。子供たちを  
引率してきた先生が、  
「中に一人、自閉傾向の子供がい  
るので、どのような程度か調べて  
ほしい。」

と、相談担当の先生に頼んでいる。  
大学卒業以来、普通学級を担任  
し続けてきた私は、教育相談を担  
当するようになってはじめて、自  
閉という言葉を知った。

相談室に指導を受けにくるこの  
ような子供たちの様子をみている  
と自分の行動に対する色  
々なこだわりがある子が  
多いが、指導する先生方  
は、それを上手にコント  
ロールしてコミュニケーション  
ションを図り、この子供  
たちの世界を広げようとしている。

これまで、健常児を相手にして  
きた私にとって、心身障害児指導  
のための教材教具の工夫や指導法  
などからは学ぶことがたくさんあ  
り、気が付くたびに記録しておく  
ことにしている。

相談の他に、様々な仕事をしな  
がらの毎日なので、一日一日があ  
わただしく過ぎ去ってゆくが、相  
談を受けに来る子供たちや保護者  
と接することで、私自身も成長し  
ていくような気がする。

### 短期研修員だより

特殊教育研修部

今井牧子(朝倉小学校)

「今頃あの子は何をしているの  
かな。」例年になく暖かな冬の日射  
しを浴びながら、ふと、来所して  
きた子供たちの顔を思い出します。  
五か月という研修期間の中で、  
センター機構の一端である教育相  
談活動に、ほんの少しですがかか  
わる機会を得ました。いろいろな  
悩みを抱えて来所する人たちと対  
面する時、出会いの喜びのその一  
方で、自分の無力を感じてしまっ  
たこともありました。

私自身も様々な悩みを持ちなが  
ら、お忙しい中時間をさいて相談  
に乗ってくださる先生方のおかげ  
でどうにか研修終了の日を迎える  
ことができました。

センターとは講座でしか接する  
機会のない私でしたが、教育に関  
する目に見えない多くの仕事を抱  
えていることを知り、改めてその  
果たす役割の大きさを実感しまし  
た。

まだまだ未熟ですが、センター  
での多くの出会いや経験を大切に  
し、今後の指導場面に少しでも生  
かしていけるよう心がけたいと思  
います。

# 平成元年度

## 秋田県教育センター研修講座の案内

### — 講座内容の充実を期す —

平成元年度に秋田県教育センターが開設する研修講座ならびに研究事業計画を策定したので、その概要を紹介いたします。

研修講座の編成に当たっては、学校現場のニーズや今日的教育課題に対応して講座の見直しを図ると共に、教育センターの機能の拡大に即して新設あるいは移管される講座の拡充、身近で親しみやすい教育センターを目指す事業の一環として開設される移動講座や公開講演、夏季教育セミナー等の充実を期しました。

研修講座の内容の詳細については、「平成元年度研修講座案内」として各学校及び教育関係機関に送付するので、御活用ください。

### 新設講座

#### ※中学校生徒指導主事

生徒指導主事の職務や生徒指導上の問題について研修を行い、相互の連携を深め、生徒指導の充実強化に資する。

#### ※小・中・高等学校生徒指導

学級担任を対象とし、生徒指導に関する基本的諸問題について研修を行い、生徒指導の充実強化に資する。

#### ※中学校情報教育（情報基礎）

新教育課程の基準にともない新設される領域に対応した講座である。

る。技術・家庭科担当教員を対象とし、情報教育に関する一般的な知識と技能について研修し、「情報基礎」の指導の充実を図る。

### 初任者研修講座

新任教員（小学校）を対象とし、主に学級経営、教科、道徳、特別活動、生徒指導等の基礎理論とその展開の方法について研修を行う。

### 移管講座

今年度から当教育センターの所管となる講座

#### ※小・中学校新任教務主任

※小・中学校教職経験者（十五年経過）  
※中学校英語教育セミナー

### 統合講座

※小学校教科教育（国・算・音・図）  
※中学校技術・家庭科教育（金工・機械）、同（食物・被服）、同（木工・電気）

※高等学校家庭科教育（被服・食物）

### 分割講座

※中学校理科教育（第一分野）、同（第二分野）

### 移動講座

※小・中・高等学校生徒指導（北・中央・南）  
※小・中学校新任教務主任（北・中央・南）  
※小・中学校教育相談初級（北・中央・南）

※小学校複式学級新担任（中央）  
※小学校理科経営（南）  
※小学校実技（音・図・家）（北・中央・南）

※中学校英語教員セミナー（北・中央・南）

※中学校情報教育（情報基礎）（北・中央）

※ビデオ教材制作（南）  
※小・中学校特殊学級新担任（北・中央・南）

### 休講講座

※小学校教科教育（社・理）  
※小・中学校毛筆書写  
※障害児教育教材・教具製作

### 公開講演

研修講座で行う講演の中から、講座の受講者以外の方でも聴講できるよう一般に公開する講演です。研修講座案内にその一覧を掲載しておりますので御覧ください。

### 第2回 夏季教育セミナー

期日 平成元年8月17日～18日  
会場 秋田市文化会館  
主題 これからの学校教育を考える（仮題）

### 第4回 秋田県教育研究発表会

期日 平成2年2月14日～15日  
会場 秋田県児童会館  
秋田県生涯教育センター

### 編集後記

あわただしく、そしてそこはかとない哀感と希望を秘めて三月となりました。先生たちの御多幸と御発展を心からお祈りします。